

**関係に傷ついた生徒がHR、授業、行事で
協働するとき -見え方の違いを越えて-**
埼玉県公立高等学校 渡部 翔子(仮名)

5 1 はじめに

4年前、夜間定時制高校に異動した。生徒は、
4学年各1学級で、全校生徒数が40名程度である。

異動してすぐに担任した新入生(HR)は男
10子10名女子2名。12名の内、外国ルーツの生徒
が2名おり、それ以外は全員が3~6年の不登
校経験者だった。それぞれに、発達の課題や家
庭に事情を抱え、これまで何らかの形で他者との
関係に傷つき、ずっと自分を固く閉ざしてきた
15彼らに、学校を楽しいと感じてもらえる場所
にしたいという思いがあった。生徒会担当にも
なれたので、コロナ禍で失われていた行事の復活
に力を入れた。それでも、1年次の終わりま
20でに、諸処の事情で半数が去り、4年次には男
子6人になっていた。

自分とは異なる他者とどう出会わせるか、その
違いを越えてつながり、協働して何かを形に
することの喜びをどう味わってもらうかを常に
25頭の隅に置いて、HR運営も、授業も、行事づ
くりも行ってきた。

HRでは、経済的にも厳しく、朝からアルバイト
をしてくる彼らに「私は、決して圧を掛けない
(生徒をコントロールしようとしない)」と心に
30決めてきた。4年になって遅刻欠席がなくな
らないのも、職員室への入り方が身につかない
のも、座席が定まらないのも、自分の精神を
安定させるためには外からの刺激を遮断する
必要があるSがいつもフードを被ったままなの
も、周りから「ゆるい、締まってない」と見
35られていることは感じていたが、力で言うことを
聞かそうとしたことはほとんどなかった。修学
旅行を約ひと月後に控え、異動してきたばかり
の校長が引率責任者に決まったものの、この生
徒たちの状態に驚くのではと、若干焦りも出
40てきた。(引率は、校長・養護教諭・担任の3名
と旅行会社の添乗員1名)

ある日のSHRで、声を掛けてもイヤホンが
耳に入ったままで、なかなかスマホをしまおう
としないSに「S、イヤホン。スマホもしまっ
45て」と机の前まで行って、声を掛けたら、いき
なり無言でザーっと机の上にあったものをすべ
て腕でなぎ払って床に落とした。少し、傷つい
たがその時は、虫の居所が悪いのかな?と深追
いせず、「S、何すんの?スマホが壊れるよ」
50とだけ言った。放課後の個人面談で、「ああい
うふるまいを見ると就職大丈夫かな?と心配に
なるよ」と言うと、「俺、バイト先ではちゃんと
切り替えて、接客ナンバーワンなんですよ」
という。ホントか?と思いつつ、記憶を辿る
55と、確かに、給付型の奨学金を3年次で受け取
るセレモニーで、先方から抱負を言えと急に求
められて、結構ちゃんと言えていたことを思い
だし、「それなら、教室でもやってよ」と言う
と「なぜか、家と教室だけは、素になっちゃっ
60てムリなんだ」と答えた。

2 修学旅行12日前に起きたトラブル

そんな中、4月30日の給食の時間(1限と2
限の間の25分間)に、給食室でTが小声で1限
65目理科室のドアを開けたままにした、発達課題
を持つHに対し、気の短いIが高圧的な態度だ
ったことを私に伝えてきた。Iには、自分と合
われない者を排除しようとする傾向が若干ある
ので、また注意を促さなければいけないか?でも
70一方的な声だけでは動けない...と思いながら、
職員室に戻った。1年生の時の副担で、Iが所
属するバドミントン部の現顧問でもある体育教
師に話をしてみた。

すると「まあ、Iの気持ちも解りますけど。
75体育の授業の時もHがいつも遅くて最後に入
って来て、毎回ドアを開けっ放しで『おい、閉め
ろよ』と、注意しても自分から閉めることがな
くて、私でもイラっとしますよ。Iはバドミン
トン部なんで、日頃から風の影響を受ける扉に
80は過敏ですよ」と言われた。

それを聴いて、なるほど...IにはIの想いが
あったんだな。ドアの開閉1つでも、感じ方が

違うもんだなと思い、翌日の私の担当する国語表現の授業で、この感じ方や見え方の違いを教材にできないか？と考え、「1人ひとりの物事の見え方の違いを知って、考えよう」シートを作成してみた。

翌日は、Tからの訴えとはせずに、トラブルが起きた際、実験室内にいたM教諭から話を聞いたということにして、まず以下のように話した。

10 「昨日、M先生から授業直前にドアを巡るトラブルがあったことを聞いた。修学旅行の直前だから、気をつけた方が良くかもと言われた。感じ方や考え方の違う人間とどう折り合うかを学ぶのが学校に来る意味の1つだと思っている。

15 自分の言動に反応してくれる他者がいて初めて、自分の思いや行動の意味がわかる。それぞれの背景を知って考える必要があるのではないかと思う」と。

その後、シートを配布し、3列の表に左から

20 ①自分の見聞きした事実②それを見聞きしたときの自分の感情③客観的に、読み取ったその時々

25 の他者の感情を時系列に書き出させた。一定時間をおき、その場で、集めて各自にどう見えていたのか私がざっと読み上げながら、書いた本人と全体に確認、整理していった。

「どうして、こんなことをしようと思ったか」というと、昨日M先生から話を聞いたときは、また、Iの自分の好きな人以外は居心地悪くてもいいという悪い面が出たのかと一瞬思ったんだけど、W先生からバドミントン部で常に体育館のドアには神経を尖らせているって聞いて、なるほど、IにはIの見え方があるんだって気づいたからなんだ」この取り組みを通し以下が共有された。

35 Iの「最後に場に入って来た人が閉めるもの」という認識は、先述のバドミントン部ならではのものもあるし、体育の授業中に毎回Hが注意を受けていたことも「何度同じことを言われたらやるんだよ」という気持ちを生じさせる

40 背景になっていたことがわかった。

一方Hの、「必要と思う人間が動けばよい

(自分が動きもせず、人に命令する人間や、「言われる前に動け」という言葉に対するアレルギーがある)頼まれればやるけど、頼まれなければやらない」という姿勢は、小、中でバカにされたり、いじめられたりした経験がトラウマになっていること、「やられたら、やり返す」と強く出なければ、自分を保てないのかもしれないこと、また、Hの父親は声が大きく暴力的なため、高圧的な態度や威圧的行為をとっても嫌っていることなどが、Tの見方(シート)からも出てきた。

50 最も驚きだったのは、日頃感情を抑えるため、フードとイヤホンで外界からの刺激を遮断しているSが、誰よりも周りを見、それぞれの心の動きを読み取れていたことである。この日コミュニケーションのスキルが高い、心優しい外国ルーツのDは欠席だった。

60 3 生徒たちの話合いの一部

B「こういうトラブルって、それぞれがどういう性格でどういうクセを持っているかを理解してたら、避けられると思うんだよね。IかHのどっちかが大人になればいいのに、両方がガキ

65 っぽい反応しちゃったから起きたんじゃない？」

I「Hさ、バイトやめた時上司に文句言ったんでしょ」

H「言った。オレは目上だろうがウザい奴には言い返す！」

70 I「どういう言い方したの？」

H「お前みたいなウザい奴の下では働く気ないから辞めてやるよ！って店長を怒鳴りつけた」

I「店長っていったいHに何をしたわけ？」

H「オレは洗い場担当だったんだけど、どん

75 どん洗い物を持って来るから終わらなくて…『いったい何時までかかるんだよ』とか言ってガッシャンと大きい音を立てて食器を置いたり、隣に立って流し台をコツコツ叩いたり…」

I「あー、圧掛けてきたわけね？」

80 H「そう。めっちゃ圧掛けてくる」

B「社会に出ると、結構上下関係厳しいのよ。上の人の言うてくることって理不尽なイジメみ

たいなこともあるけど、その仕事をしていく上で大事なこともあるじゃん。人としては対等でも、上は上で後輩や部下を育てないといけないから、アドバイスしてくれてるんだったら、聞く耳もって、立てないといけないこともあるんじゃない？上司に『お前』はないかも」

渡部「はたらく＝端楽」と板書。

I「それ、どういう意味っすか？」

渡部「お婆ちゃんがよく、働くときは端、側にいる人のことね、端を楽にするつもりで働けて言ってたんだ」

I「うおー！なるほどね！（立ち上がり興奮気味）Hさあ、ご飯一緒に食べるような友だちっている？」

15 H「いない。ご飯は家族としか食べてない」

I「友だちつくると良いよ。大好きな友だちができるよ、その人のために動くことって苦じゃなくなるんだよ。例えば、Bはさ、自分の試合がなくてもオレのために電車賃使って応援に来てくれるんだよ。だから、バイトも一緒にやっていると、早く店に入ってやっておいてあげたらBが楽になるなあと、頼まれたりしなくても、自分からやってあげて喜ばせたくなるんだよ。そういうのが端楽ってことでしょ？」

25 渡部「そうだね。人事の人が『同僚としてこの人と一緒に働きたいと思う人を採用する』って言うけど…」

I「（遮るように）人から言われてから動くんじゃないって、自分から気がついて誰かのために動けると楽しいよ。Hもさ、こいつのためなら、何か自分から動いて喜ばせてやりたいと思える友だちつくれよ～」

H「うーん」

渡部「Hはさ、1年の作文でも書いて発表したから、みんな知ってるけど、小中でいじめられた、イヤな経験がトラウマになって、乱暴な口調で言われると、身構えてどうしても過敏に反応しちゃうんじゃないかな。言いなりになりたくないって。だから、友だちと一緒に食べる初めての経験が今度の修学旅行なんじゃない？」

I「そっか……ごめんな。嫌な思いさせちゃっ

て。修学旅行は楽しく行こうな」

H「うん！」

その授業後、帰りのSHRが終わった後の雑談で、

H「クラスの人たちとこういう風に話し合えたの初めてで……僕、幼稚園の頃から泣き虫で、変わらなくて…なんか、涙が出てきちゃいます」（と涙を流す）

50 B「みんなの考えていることとか、よくわかって、話し合えてよかったな」

T「自分も、誤解のあったことが解って良かったです」

Iからは、夜遅くに「毎度、迷惑掛けてすみません」とLINEが入る。

4 Hの成長が著しかった5年ぶりの修学旅行

5月中旬、2泊3日で京都・大阪に行った。目的地は、3年次の国語表現で、各自希望の土地ならでの食事と学習体験を入れた行程を企画し、プレゼン発表を経て、みんなで決めた。5年ぶりの実施だった。コロナ禍だけが原因ではなく、歴代の担任が不実施なら積立金が戻ると半ば誘導し、実施規定人数の同意が得られなかったと、中止にしてきたからだ。ここまで不登校等で経験できず、人生初で最後の修学旅行になる者も多いので、抑えた費用で豊かな旅になる方法を、私は添乗員と必死に探った。全員で行きたかったが、弟が生まれたばかりのTは、半年前からの申し出の通り、旅行代を学費に充てるため不参加となった。

電車で1人で乗ったことのないHは、事前に練習をしたという。生徒たちは、当日寝過ごすことを恐れ、一睡もせずに集合時刻の10分前に揃い、互いに驚き合っていた。着任してひと月の校長は、事前に渡した各生徒の特徴や背景を全て頭に入れて、接してくれた。

初日の京都は2万歩超えのハードなものになった。その晩は、広い食事会場でのビュッフェで、「料理を一人で取りに行けないので一緒に行ってほしい」と言っていたHだが、UFJで苦手な絶叫マシーンへの誘いを断れたり、午後を

1人で楽しめたことで徐々に自信をつけていったようだった。3日目の大阪城見学後、難波でのたこ焼きタイムでは、魚介が苦手なHを心配したが、再集合場所に土産をたくさん抱えて戻ってきたHは「添乗員さんに教わった串揚げ屋に一人で行って、カウンター席で食べてきました！」と誇らしげに胸を張った。それを聞いた、外国ルーツのDが「Hスゴいな！この中で一番オトナになったな！」と肩を叩いた。Hは満面の笑みを見せた。最後に、生徒が帰った後の駅のコンコースで、校長に「目の前でぐんと成長する生徒の姿が見られて、感動の修学旅行でしたね」と言われ、見合わせた目が互いに涙目であるのに気づき、2人で笑い泣きになった。

5 数学の授業に対する不満が溢れた日

11月6日(水)2限の数学の授業中Iが、教室後方のロッカーを開け、中のプリントをビリビリに破り始めたようで、職員室に戻った担当のA先生が「アイツどうしちゃったんだか、おかしくなったみたいで、何度も取り直させようとしたけど取り直さず、突然立ち上がってロッカー開けてプリント破り始めて…」と言った。

私の中では、すぐに「ああ、Iついにコップが溢れちゃったか…でも、目の前の数学のプリントには触らずに、別の破いても無害なものを破くことで、気持ちを逃がしたんだな。ちゃんと冷静さもあるじゃん」とその思いが手に取るように解る気がして胸が痛んだが、数学の担当者は自分がそのきっかけになっていることには気づいていないようだった。

次の授業がPC室で2時間続きの私の授業だったので、Iのそばに行き話しかけてみた。

私「I、大丈夫？何か奇行に走ったらしいけど？」

I「なんすか？キコウって？」

私「突然ロッカー開けてプリントをビリビリにしたって…」

I「あー、そんなん数学の時間だけっすよ。オレもうあの時間ムリなんで」

私「何がムリなの？」

I「あの人の喋り方も、何もかもが大キライになってるんで、生理的にもうムリっていうか」

私「生理的にかあ、どういうところが？」

45 I「完全に上から目線なんすよ」

私「例えば？どういう感じなの？」

I「基本的なことは身に付いてる前提で進めるってか、オレらそんなの身に付いてないじゃないすか？前の先生は解りやすかったし、聞けば基本に戻って「こうだからこうだろっ」て説明してくれたし、テストも途中式とかで部分点くれたから何とかやる気になれてたけど…A先生は定時制のことちっともわかってないんですよ」

50 B「定時制のことっていうか、オレら1人ひとりのことをわかってないっていうか…オレらだっ

55 て、みんなそれぞれ違うじゃないですか？オレは自分の今の父親がああいう感じの話しかたから慣れてるし、まあ数学も全然わからないわけじゃないし。だから、オレは大丈夫なんだけど、Hなんかは、『休んだらプリントは自分から取りに来て、休んだ分は自分で補習しろ』って言われても、そもそも職員室に行って声を掛けるってところがもう難しいわけじゃないですか？やらせようって気持ちもわからないわけじゃないけど…それだけで、Hはすごく緊張しちゃうし、しんどいんだと思うよ」

I「そう、1人ひとりを観てほしい、少人数なんだからできるはずだし」

70 B「体育のS先生とかW先生は1人ひとりをちゃんと理解して、それぞれのレベルで『ここが出来るように』とかやってくれるし、人として目線が対等だから」…

I「2人とも良い先生だよな。だからオレら体育好きなんすよ」

75 B「M先生の場合は、オレら化学苦手だから、全体的にレベル下げてあわせてやってくれてる」

I「M先生も良い先生だな。その先生が好きだから授業も楽しいしやる気になるけど、英語のKも教え方は数学に近いけど、目線は対等だし、これさえ覚えれば30点とか単語を予め教えてくれるからまあ何とか、やれるけど…」

B「数学のA先生のトゲを取ったのがK先生って

感じ？」

I「一番かわいそうなのはHだよ。サスガのオレも数学の時のHはかわいそすぎと思う」

私「なんで？」

5 I「だって、『そんなのも解らないの』感、ロコツに出して圧スゴいし、口調も強いし」

私「え？『そんなのも解らないの』って言うの？」

I「それは言わないけどお、強い言い方されたら、Hなんか余計イシュクするじゃないっすか？」

10 私「なんで先生はそんな感じになっちゃうんだろ？日頃は親切だけどね」

I「きつと頭いいからじゃないすか？中間考査の後も他の学年より4年はずーっと低くて平均が20点台だとかって、めっちゃくちゃ説教したらしいすけど、オレは休んでて直接は聞いてないけど、そんなこと怒られたってどうしようもないってか…」

私「ここで出たことは何らかの形でA先生に伝えた方がいいんじゃない？」

20 I「無駄っすよ、性格なんだから変わりませんよ」

私「確かに性格は変えられないかもしれないけど、アウトプットを変えることは誰でもしようとしたらできるんじゃない？Iだっていろいろコントロールして気をつけてアウトプットしている部分もあるじゃない？」

I「確かに…」

暫く話を聴きながら、この子たちは4年生で間もなく社会に出るし、不当な扱いに対する具体的な声の上げ方を、みんなで学ぶのも良いかもしれないと考え、2人につき間に1台ずつ置かれたモニターに私が検索する「要望書の書き方」を写しながら、

「私も、要望書なんて書いたことないから、一緒に調べながら書いてみるっていうのはどうかな？」と声を掛け、「ふむ、まずは相手の日頃のお世話に敬意を払うんだね…どういう言い回しがいいかね？」等と言いながら、生徒たちの反応やつぶやきを拾いつつ、先ほどのIからの話を言語化していく。「ちょっと、さっき言ったことって、こういう表現で合ってる？ちょっと違う？」と確認する。

私「みんな、もうすぐ社会に出るじゃん。もしかするとパワハラしてくる上司もいるかもしれないし、パワハラだと気づかずに圧を掛けてくる

45 先輩がいるかもしれない。そういう理不尽だと感じた時に1人で闘ったら負けちゃうことが多いよ。たった1人でも闘うという気構えは大事かもしれないけど、同じことを感じているひとは他にもいるはずだから、複数で組織的にやった方が良いでしょう」と話す内に要望書が一応できあがった。(別紙資料4)HRの代表と言えば、日頃は生徒会長を務めるBと暗黙の内に決まっている感じだったが、私は敢えて

私「代表者氏名のところどうする？」と投げ掛けた。Iがすかさず、「今回はオレ、やりますわ」と名乗りを上げた。面倒くさがり屋のIには珍しいことだった。

私「要望書作ったけど、これはケンカを売る果たし状じゃないんだからね、お互いによりよく授業の時間を過ごすためにどうしたら良いかを考え合うための手段なんだからね？」

I「わかってますよー」

Bにも、また、「特に不満はない」と答えたTやDにも「Iを代表にHRとして要望を出していい？それとも…自分は違うと思ったらもちろん抜けていいんだけど……どうする？」と確認したところ、全員が今回はHRとして要望書を出すことで合意した。

私「どういう形で渡す？……タイミング見計らって、私から話をした上で、次の授業の前までに渡すというのではどう？」生徒たちからは異口同音にそれでいいという声があがり、方向性が決まった。

75 6 翌(月)に要望書を渡してみた

狭い職員室のすぐ隣に座る数学担当者に、いつ、どう声を掛けようか逡巡するうちに時間が流れた。全日と兼務の校長が、本当に1人ひとりの生徒、職員のことを見てくれていると信頼できていたので、一度相談してみた。

生徒たちと作成した要望書を読み、うんうんと頷き、両者のハッピーのために生徒の思いを

伝えるのはいいのではないか？私から伝えましょうか？とも言ってくれたが、流石に管理職から言われたら衝撃が大きいだろうと思い、私から伝えてみますと答えた。

5 更に、ためらううちに時間が流れ、翌週の(月)の授業が迫ってきた。生徒の登校時間より数時間前にやっと思い切って別室に誘い、私の授業で要望書を作成するにいたった経緯や自分の思いを含めて伝えた。その反応からは、あまりキチンと伝わったのか判断しかねたが、「自分なりに考えて生徒たちに話します…でも、最低限授業の説明をちゃんと聴こうとか理解しようとしてほしいですよ」と言った。私は、「先生はパソコンも得意だし、苦手なことはないのかもしれないけど、私なんて専門用語並べられてどんだん説明されたら宇宙人語かって思っちゃうくらいワケわからないですよ。あの子たちにとってみればフランス語で説明されているのかというくらいしんどいのではないかと…全く理解できない言語でされている説明を理解しようという姿勢で聴けるかな…」と言ってみた。残念ながらあまり、伝わった手応えが感じられなかった。

たまたま、数学の時間は空き時間だった。職員室の前の廊下から、暗い中庭を挟んだ向こうの定時制の教室が明るくライトアップされたようによく見える。声はもちろん聞こえてこないが、Iの様子を見守り、もし立ち上がったら駆けつけるつもりでいた。Iが身振り手振りで何かを懸命に話す様子や、周りの生徒の顔の上がり具合や、表情から、それなりに噛み合った対話になっているのかなと読み取った。

帰りの SHR で詳しく聞くつもりでいたが、帰りを急いでいるようだったので「数学どうだったの？」とだけ聴くと「ちゃんと1つ1つの質問にこたえてくれましたよ」という答えだった。

7 要望書を書いて渡してみたことへの振り返り

翌々週、再び私の授業で「要望書を出してみて」その応答に感じたことや、考えたことを書かせたあと、自由に話し合った。(別紙資料5)

印象的だったことがいくつかあった。まず、気

になったのは、「19歳なんだから、自分の言いたいことは言え、甘えるな」という教科担当者の言葉をもっともだと納得した者が3人いたこと。

45 それが、IからHへの攻撃となってその場で現れたということ。(A先生からの話で知る。反応に驚いている様子。自分の言葉によって引き起こされたことという自覚はない)私が4年間大事にしてきたことはどうなっちゃった？

50 Sが「先生も一生懸命やっているのに、可哀想」と言ったこと。Bの「口調のこと(早口、強くなってしまふ)、難しいかもしれないが、人によって解りやすい 説明の仕方があることを理解して、それぞれ分けて、その人に合った説明をするのが(プロとしては)ベストなのでは？」やHの「先生も自覚があるんだな、頑張って努力していたんだ。自分では気づかなくて、相手から言われて気づいて気を付けようとなるんだよね」も印象に残った。Hは、修学旅行前にみんなから言われたことで気づきがあって、気を付けようとしているんだなと感じた。

文脈は逸れるが、同じシートで投げた「ここが変われば、もっと良くなる〇〇高校」に対し、Iが割と真面目に書き、真顔で発言したことも気になった。年齢差別やルッキズムについて話してみたが、あまり時間を取れなかったこともあり、Bには響いても当のIには「実際そうだし、そんなのキレイごと」としか受け止めてもらえなかった。

70 職員室に戻れば、教頭が「この間電車で足の上に重い荷物を落とされて、カッとしたいけど、相手が若くて可愛い女の子だったから許しちゃった」と笑い、目の前に座る60代男性教員が、「非常勤の〇〇さん、可愛いですよ。独身なのかな」と養護教諭に話しかけ「可愛いよね～。いくつなのかな」と噂しあうのに対し(生徒のこともイケメンとか可愛いとか言うことが日頃気になっていた)「うーん、そういうのは…」とつい渋い顔をしてしまったら「えっ？容姿を褒めるのはいいんだよね？それもダメなの?!」「いや、コレがダメなら会話できないでしょ」というのが職員室の実情なので…人権感覚を磨くって難しい。